



船引小学校だより



【教育目標】
思いやりのある子ども
よく考えてしっかり学ぶ子ども
進んでからだをきたえる子ども

令和2年1月24日
田村市立船引小学校
発行責任者
校長 有賀 仁一

**令和2年
新たなスタートへ！**

今年もよろしくお祈いします！

令和最初の正月を迎えてから、早いもので1月も後半に入っています。今年度も教育目標の具現に向けて「一人ひとりのよさや可能性を見つけ、それを伸ばさせる創意に満ちた“宝探しの教育活動”」をスローガンに諸教育活動を推進してきたところです。年度末に向けてまずは残り2か月、しっかりとしたまとめを行い、次年度につなげられるよう船引小学校教職員一同ワンチームとなって取り組んで参りますので、皆様のご支援とご協力をお願いします。

今年は「子（ねずみ）年」、子年は、十二支の1番目の干支で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年になるともいわれています。船引小学校もこれにあやかれるよう、本校の教育理念を再確認し、しっかりとした教育活動の推進に努めて参りたいと思います。



自ら選択して学ぶ “コース別学習”！

～ 学習の定着を図るために ～

来月5日に、全学年で市の学力調査が実施されます。今年1年間の学習の成果を確認するとともに、次年度以降の指導の改善に生かすことを目的としています。

6年生は、冬休み明け算数科において8時間、学級の枠を外し、自分の学びたい内容を学ぶコース別学習を行っています。「好きな内容をさらに極める」「苦手な内容を復習する」等、それぞれが目的をもってコースを選び学習します。教務部の先生も加え全4コース。担任以外や他学級の児童と学ぶのは、ふだん学級で学ぶのとは違った緊張感や気づき・学びがあり、新鮮なようです。

いずれ、どの学年の子どもたちも、現学年の学習をしっかりと身に付けて、次の学年に進級していってくれることを期待しています。家庭での学習も応援していただければ幸いです。

ひき続き“インフルエンザの予防”に、ご配慮ください！

★ 船引小の発生状況 (インフルエンザは増えています！)

√22(水)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	にん	計
インフルエンザ	12人	2人	3人	8人	15人	5人	1人	46人
学級閉鎖	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

※この数には学級閉鎖中の4の2の人数は含まれておりません

～ 学校内での感染拡大防止に努めています！ ～

三連休（成人の日）明けの14日（火）、インフルエンザによる出席停止者数が突如33名になりました。それまで、手洗い・うがい・はもとよりマスクや換気による予防に努め、5名弱で推移してきていたところでしたので、急激な増加でした。翌15日には2年2組での罹患者が3割を超え、学級閉鎖の措置を取りました。学校ではさらに予防策を徹底したところそれ以上の大きな拡大はありませんでした。しかし、20日の週明けにまた増加し、4年2組でも学級閉鎖の措置を取りました。時節柄やむを得ない状況にもありますが、週休日の過ごし方についてもご配慮いただき、インフルエンザの罹患防止に努めていただければ幸いです。

図書支援員の活躍！

～ 図書館教育・読書活動の充実 ～

市教委から、週1日2名の図書支援員を派遣していただいています。図書室の管理や図書の整備、各学年フロアの図書の整頓や入替、読み聞かせなど、多岐にわたった支援活動をしていただいています。お陰で、図書支援員がいる日の図書室は満員盛況です。担任や図書担当の先生だけではここまでの充実した図書館教育はできません。そうした意味でも、船引小学校の子どもたちは恵まれた学びの環境に置かれていると感じます。



鼓笛隊の編制に向けて！

～ これまでの反省をふまえたルールに基づいて ～

20日（月）4年生・23日（木）5年生の鼓笛隊第2次オーディションの結果が発表されました。初めて念願かない喜ぶ子、願いがかなわず落胆する子、合否発表ではよく見られる風景です。先生方は、結果発表だけに終わらせず、合格した子には選ばれなかった友達の思いも感じながら責任と自覚をもって取り組むことを、合格できなかった子にはこれまでの努力をねぎらうと共にまた違った場面・立場でのがんばりを促す声をかけています。鼓笛を通して、集団生活における人との係わりや考え方・機微を学ぶ場となっています。

一方、合否を判断する者にとっても公平・公正を期すために神経を使い、ピリピリするものです。本校では学年主任・鼓笛担当に加え、音楽主任・教頭までが審査にあたっています。今年もその様子をビデオカメラで撮影までしながら行いました。他校では、担任・学年レベルで選考するのが一般的ですので、本校の対応はより厳密です。ここまでせずに、全員に希望する担当をさせてあげられればいいのですが、児童数が多い本校においては難しいことです。

こうした中で、鼓笛隊編制にあたり、本校では毎年のように保護者の皆様からご意見をいただいていたそうです。昨年もありました。それらを検討しながら、今の選考方法に至ってきています。

例えば、「5年生で担当したから6年生でも担当できるものではない」というのは、1年間の子どもの成長を考え、広くチャンスを与えようとしています。「オーディションは一度限り」というのは、限られた時間の中で公平・公正を期した選考をするためです。かつて、インフルエンザで休んだ一部の子に配慮したところ、それが拡大し該当者が増えて対応しきれず鼓笛隊編制の日程が大きくずれ込んでしまい、他の教育活動にまで影響が出てしまったそうです。加えて、元気だった子の保護者からは、「できる子だけへのえこひいきではないのか！うちの子が

選ばれるはずだったのではないか！条件が違うところでやって公平と言えるのか？」といったご意見をいただき苦慮したそうです。こうした本校の歴史をふまえての今の選考方法です。

それまでがんばってきた子の悔しさ・残念さはよく分かります。その姿を見て応援してきた保護者の気持ちも、子を持つ親としてよく分かります。私自身、学校に対して「ん？」と思ったことが幾度となくあります。しかし、我が子の成長を考えた時、ここで自分が意見するのは…と思い直し、飲み込んだことを覚えています。

集団生活をする際、特にその集団が大きくなればなるほど、一定のルールを決めて判断せざるを得ないことをご理解いただければ幸いです。当然、今年いただいたご意見も尊重し、改善に向けた検討をしております。どうぞよろしくお願い致します。

子どもたちの人生はスタートしたばかりです。すべて成功体験で成長できればいいのかもしれませんが、そうとも言い切れないのではないのでしょうか。これからまだまだこういった場面は出てきます。そうした時に、この悔しさを次の場面に生かすような考え方ができる子どもに育てられたらすてきだなと思いますし、人間としての幅を広げ、温かみのある人間として大きく成長することにつながるのではないかと考えます。保護者としても、そうした子どもの成長を応援するかかわりができたらすてきだなと考えます。様々な経験を通して、自分のことだけでなく、他の人のことも考えられる豊かな心をもった人間に育っていったら、それこそ学校教育で取り組んでいる意義と価値があるのではないのでしょうか。

以上、今回は紙面をオーバーして、校長の思いと考えを綴らせていただきました。今後とも本校教育活動へのご理解とご支援をよろしくお願い致します。